

令和3年度学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、明朗で協調性に富む、健康な児童生徒を育成する。

校訓 「明るく 仲よく 元気よく」

2 学校の特徴

- ・ 知的障害や肢体不自由のある児童生徒を対象にした新川地域唯一の特別支援学校である。児童生徒の約8割が自宅から通学しており、その他は隣接の児童福祉施設から通学している。
- ・ 小学部・中学部・高等部のほか、通学して教育を受けることが困難な児童生徒のために訪問教育を開設している。
- ・ 一人一人の可能性を最大限に伸ばすとともに、個別の教育支援計画に基づいて将来の生活の自立や、よりよい社会参加ができる児童生徒の育成を目指している。
- ・ 学部や学年の行事を通して、社会的な体験を広めるとともに、近隣の幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、中学校、高等学校及び地域の方々との交流教育を大切にしている。
- ・ 関係機関と連携しての早期教育相談を実施するとともに、小学校・中学校・高等学校への支援等では、特別支援教育コーディネーターを中心に新川地域における特別支援教育のセンター的役割の充実を図っている。
- ・ 校内実習や就業体験、関係機関との連携を通して、卒業後の豊かな生活を目指した職業教育や進路支援に努めている。
- ・ 医療的ケアの必要な児童に対する教育活動への適切な支援を行うために看護師が配置されている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・ 教育の対象が知的障害及び肢体不自由である。年々、児童生徒の障害の重度・重複化、多様化が進んでおり、医療と密接な連携を必要とする重度の肢体不自由児童生徒が在籍している。
- ・ 児童生徒一人一人の状態や教育的ニーズに応じた指導の充実を図るため、学校・保護者・隣接児童福祉施設が協力して個別の教育支援計画の作成や情報共有を行うなど連携を図っている。
- ・ 児童生徒一人一人が集団の中で主体的に学習や学校生活に一層取り組めるよう、教員のICT活用能力を推進する必要がある。
- ・ 児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育の理解・推進を図っている。
- ・ 新川地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすことが求められており、小学校等への支援に積極的に取り組んでいる。
- ・ 小学校・中学校・高等学校・地域との交流及び共同学習を継続して実施している。

(2) 課題

- ・ 障害の程度や発達の状態に応じた指導の充実
- ・ 健康で安全な学校生活の推進
- ・ ICTを活用した児童生徒が主体的に取り組む学習指導の充実
- ・ 多様なニーズに合わせた進路指導の充実
- ・ 家庭や学園等関係機関との連携
- ・ 特別支援教育のセンター的機能の一層の充実

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中で一人一人が、主体的に取り組む力を培う学習指導の充実を図る。 ・ 小・中・高等部の一貫した支援の充実を図る。 ・ 自立と社会参加に向けた学習指導の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学部、中学部、高等部での学びの系統性や一貫性、また、学びの深まりを意識し、「適切な支援や評価」を検証しながら、自立と社会参加に必要な力を培う学習指導に取り組む。 ・ 学習指導要領に基づいた学習会を通して、授業づくりを行う。
2	学校生活 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活や社会生活に必要な力を身につけ、生活に生かす態度を育てる。 ・ 児童生徒の健康で安全な生活を保持・増進するための習慣や態度を育てる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学期に手洗い週間を設定し、手洗いチェックカードを用いて、他者及び自己評価を基に正しく手洗いができるよう指導する。
3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の多様なニーズに合わせた進路支援の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関と連携を図りながら、進路支援に必要な情報を収集・整理し、懇談会や校内掲示、各種通信等を通して本人や保護者に提供する。 ・ 「進路指導の手引き」を活用した教員対象の学習会や卒業生のアフターケアを通して進路指導に関する充実を図る。
4	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒会活動、学校行事等を通して、児童生徒の自主性、社会性の育成を図る。 ・ 本や読書への興味や意欲を高め、読書を楽しむ態度を育てる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒会執行部を中心として、あいさつ運動を推進する。 ・ 図書の実、図書室の環境整備、活用方法の工夫を行う。
5	その他 重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育のセンター的役割の充実を図るとともに、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図る。 ・ P T A会員の事業への積極的な参加を促し、P T A活動の活性化を図る。 ・ 教員の知的障害教育、肢体不自由教育等の専門性の向上を図る。 ・ 教員のI C T活用能力の向上を図る。 ・ 各学部・分掌、担任業務の効率化を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内の特別支援教育コーディネーター連絡会を定期的開催して、相談事例について、アセスメントを基にした支援方法や相談の評価を踏まえた支援の改善等について検討し、小・中学校等への支援を進めるとともに、関係機関等と連携しながら専門知識の習得を図る。 ・ P T A活動への興味関心が高まるよう、方法や内容を工夫して、親子活動、進路に関する取組等を実施する。 ・ 学部研修等を通して、教員の資質向上を図り、自立と社会参加を目指した授業づくり・授業改善を行う。(重点1と連携) ・ I C T機器活用に関する研修会を実施し、授業実践に生かす。 ・ 諸帳簿の入力業務の見直し、児童生徒の基本データの集約、管理を行う。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和3年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動（中学部）	
重点課題	集団活動の中で自分の役割を知り、自立した生活を送る姿を目指す学習指導の充実	
現 状	<p>一昨年、昨年と、学部課題を「集団の中で身近な人と関わりながら、自分の役割を果たす姿を目指す授業の在り方」として、作業学習を取り上げ、「中学部の作業学習で付けたい力」や「作業学習における目標」を検討し、指導案検討や授業改善等を行いながら授業づくりを行った。</p> <p>生活に生かすことができる学習内容及び教材の工夫や、友達と協働する学習場面を多く設定したことで、生徒同士で伝え合ったり、友達の様子を見て自分から活動に取り組んだりする様子がみられるようになった。更に、目標が達成できたかどうかを教師と一緒に振り返ることで、前向きに次時の目標を考える生徒の姿もみられた。一方で、学習を振り返ったり、自己評価や他者評価を受け入れたりすることが難しい生徒の姿もみられる。</p> <p>今年度は、生徒たちが学習活動での自分のすべきことや役割を理解して目標達成に向けて取り組み、友達と共に活動する喜びや達成感を味わう経験を積み重ねることを主軸として授業づくりを行っていきたい。</p>	
達成目標	授業づくりの学習会 実施回数 年3回以上	対象授業の検討会 実施回数 年3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に基づいて行う ○学習会のテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等を合わせた指導 ・主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくり ・観点別学習状況の評価等 	<ul style="list-style-type: none"> ○対象授業「作業学習」 ○検討内容 <ul style="list-style-type: none"> ・目指す生徒の姿について ・生徒の指導目標や指導内容、支援方法等（個別の指導計画に記載）について ○方法 <ul style="list-style-type: none"> ・「教師のための授業改善ポイント」の活用 ・学習会の活用 <p>※「教師のための授業改善ポイント」…本校の研修で作成し、全学部共通のもの</p>

令和3年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活（保健部）
重点課題	児童生徒の手洗いの意識や技能の向上
現 状	<p>手洗いの機会としては、トイレ後、給食前、登校直後、教室以外の活動後、下校前など日に数回あり、児童生徒の実態に応じて手洗いの実践を支援している。</p> <p>手洗いは感染症予防に有効な手段である。児童生徒の手洗いの実態はさまざまであるが、少しでも自分で丁寧な手洗いができるよう、また、自分から手洗いに取りかかるように、手洗いへの意識を高め、ていねいな手洗いの仕方及び清潔についての知識を継続して学習できるように取り組みたい。</p>
達成目標	手洗い週間の実施（各学期1回）
方 策	<p>○手洗い週間を各学期に1回程度実施する。</p> <p>1 学期...手洗いミニ講座（学年毎、3密を避けた学習グループ単位）の実施</p> <p>2 学期...手洗い歌の校内放送と手洗いポイント紹介、ハンカチ交換の呼びかけのポスター制作等、中高等部の保健給食委員会の活動と連携して行う。</p> <p>3 学期...手洗い名人表彰と手洗い名人による実演（学部または学年を単位として実施）</p> <p>○各学期の手洗い週間に合わせて、「手洗いチェック表」を配布し、自己評価・他者評価する機会とする。</p> <p>※「手洗いチェック表」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの動きや手順がイラストで示されており、洗い残しのない手洗いの仕方がわかるようになっている。 ・友達同士で確認し合うこともでき、成長した点がわかりやすい。 ・これまで積み重ねたチェック表の記録から、手洗いの成長の変遷を把握することができる。衛生や清潔への意識付けを図ることができる。

令和3年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	その他（総務部）
重点課題	コロナ禍での充実したPTA活動の企画、運営
現 状	<p>昨年度のPTA活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止策を行いながら、施設見学・地区別学習会、夏祭りに代えた夏祭りお土産セットの配布、クリスマス会に代えたクリスマスイベントでくじ引きによるプレゼントの配布を行い、好評であった。</p> <p>今年度は、昨年度の取り組みに加え、できなかった活動を工夫して行いたい。</p>
達成目標	PTA活動の実施（年間4回以上）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路について考える機会である施設見学・地区別学習会を、バスの台数、見学方法、食事の取り方、学習会の会場設営等を考慮して企画する。（1回） ・夏祭りやクリスマス会は、例年150名程度の参加があるため、一堂に会せず夏祭りお土産セットとクリスマスプレゼントを全員に配布する。（2回） ・ニュースポーツ体験会は中学部と高等部を対象、ダンスは小学部を対象とする。（2回） ・新規の企画として、就労支援事業所や生活介護事業所などを利用している卒業生の保護者を招き、在校生保護者の聞きたい内容に即した講演を行う。（1回）